

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2023年3月15日

事業所名 アフタースクールスマイルステーションタ陽丘

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		子どもたちの様子を見て配慮している。	やや広すぎるので、場の使い方を工夫していく。
	2 職員の配置数は適切である	○		マンツーマンなので、利用者一人につき、必ず一人以上の職員がいる。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		スロープになっている。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		職員会議等で常に話し合っている。	これからも常に業務改善を進めていく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者の意向等を把握し、業務改善につなげている。	保護者の意向等を大切にしていきたい。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページや会報で公開している。	今年度もホームページや会報で公開する予定である。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			第三者による外部評価は行っていないが、相談支援専門員や学校関係者などには適宜見学に来ていただいている。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修の機会を確保し、発達理解や対応法、心理学等について学んでいる。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		担当者会議で検討している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		発達検査などの結果を参考にしている。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			マンツーマンだが、ローテーションで支援者が変わっていくので、チームで指導プログラムを立案している。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		常に子どもたちの様子を見て、工夫している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			長期休暇には日常と違う支援ができるよう、工夫している。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			個別がメインのため、該当しないが、複数とのかかわりを望まれている場合には関わる機会を設けている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日、打合せを行っている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		振り返りを行い、共有している。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援報告書のほかにも特記すべき点を記録している。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的に面談を行えるよう予定を組んでいる。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		子どもの特性に合わせて、支援を行っている。	成功体験の積み増しを促し、自己肯定感を育てるようにしている。	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画できるようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	送迎は行っていないが、学校の行事等の情報は共有している。	学校の行事等の情報について、もっと情報を密にしていく。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		今のところ、そのような事例はないが、受け入れる場合は体制を変えたい。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		今のところ、そのような事例はないが、機会があれば努める。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		今のところ、そのような事例はないが、機会があれば努める。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			今後もサービス向上のため、研修の受講を検討する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	避難訓練等で交流している。	障がいのない子供との活動は特に行っていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		天王寺区子ども部会に参加して交流を図っている。	生野区の支援会にも参加して交流している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		お迎えにくる際や報告書等で様子を共有している。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			保護者から相談があった場合、相談に応じている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に丁寧に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者からの悩み相談に応じ、支援を行っている。	送迎の際にお話を伺い、相談事はいつでも受け入れている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			父母の会の支援はしているが、保護者会等は開催できなかった。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情やニーズについては迅速に対応している。	同じような苦情が来ないように、改めていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、すまいる通信を発行し、ホームページでも発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	○			個人情報の取り扱いについては、充分注意している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		送迎時に働きかけたり、電話をしたりしている。	これからも意思疎通のために配慮をしていきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている		○		他の事業所や地域住民の方と交流する活動は行っていない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		緊急時対応マニュアルは常に掲示している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練は消防署などと連携して年3回実施した。	子どもには個別にお話をしていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		職員の研修を行っている。	虐待防止委員会を作って対応している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			該当する子どもがいた場合、保護者との話し合いを元に対応する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		食べ物を食することがないので、特に対応はしていない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		適宜、事例集を作成している。	ヒヤリハットの事例が出ないよう、日ごろから気をつけている。